

時代に合わせて、新しいチャレンジを繰り返す。船や店舗の家具職人集団



株式会社創和

企業概要

代表取締役

猪狩 孝久氏



所在地 三重県津市雲出伊倉津町1271-1

TEL:059-234-0311 FAX:059-234-0312

創業 1976年(昭和51年)

設立 1990年12月20日(平成2年)

資本金 8,000万円

従業員数 40名(2025年11月現在)

事業内容 船舶内装工事、木型工事、熱絶縁工事、オーダーメイド家具の設計・製造

URL <https://www.kk-sowa.co.jp/>



会社外観

船と店舗のインテリア集団

木の温かみと最新技術を掛け合わせて、オーダーメイド家具を製作

船大工の技術を活かした家具づくり

私たちの暮らしを支える家具は生活の中に溶け込む身近な存在だ。それは陸上での生活空間に限らず、遠国からさまざまな資源や物資を運ぶ船の中にも、船員たちの生活を支える家具が存在し、必要とされている。

津市に本社を構える株式会社創和は、船舶の居住区内装工事や家具のオーダーメイド製作を中心に事業を展開する企業だ。創業は1976年で、これまで数百隻以上の船舶内装工事を手がけてきた。

船舶という限られた空間に居心地のよさを創る同社の技術と



発想力は、船だけでなく、美容院や飲食店、病院などさまざまな場所や空間とそこに訪れる人々の時間も彩っている。

若手大工を束ねて福島から津へ

創和のルーツは、創業者である現会長・猪狩正治氏が生まれ育った地、福島県いわき市にある。祖父母が造船業を営んでいた関係で、会長も造船所で働くことになるが、時代は木から鉄への転換期。造船方法が大きく変化したことで職を失った若い船大工たちに声をかけ、会長は猪狩組を結成した。若い船大工集団を束ね、建築の仕事で全国を渡り歩く日々の中でも、会長の胸には常に造船への想いがあったという。そんなある日、大手鉄鋼メーカーの造船部門が新たに三重県津市に造船所を操業することを耳にする。

これを機に、76年、猪狩組は



世代・国籍を超えた創和のチームワークは、経営理念の「創意工夫」と「和の心」を体現している

械の方が早く、美しくできる作業もある」と猪狩社長。工場は集塵機を導入していることで、木屑や粉塵も床に落ちておらずピカピカ。暑さ寒さに無縁の工場にもなった。

事務所と二つの工場を一つにまとめたことで、職人同士の交流が増え社内の雰囲気がよくなり、また、工場と事務所の間に設置された大きなガラス窓の陰で、事務職員と職人の距離も縮まった。社内のコミュニケーションが円滑になることで、互いを尊重しあえる文化に磨きがかかっている。

年代・国籍を超えて相互に伝え合う技術と知識

技術の継承については、ベテランから若手への一方だけでなく、反対にベテランが若手に機械の使い方や技術を教えることもあるという。「技術は年上から年下へ受け継ぐだけではない。人と人が話をして、交流して成り立っているのが創和」と猪狩社長は胸を張る。

もうひとつ特徴的なのが外国人労働者の存在だ。現在、同社の従業員48名のうち、12人が海外出身者だ。イタリアの有名家具メーカーの職人だったイタリア人や、ルーマニア人の職人を採用した。またミャンマー、カンボジア、フィリピンなどからは技能実習生を受け入れている。「言語を超えて同じ想いで働いてもらうために、各国の言語で文書を作ったり、工夫している」と、社長の姉で総務として会社を支える外浜氏も語る。

近年Webサイトをリニューアルし、津市出身の写真家 浅田政志氏により撮影された写真を掲載したところ、社内の雰囲気

がよくなるかと好評だ。それも相まって求人情報を出すのにもすぐに応募があるという。平均年齢60歳以上が当たり前とされる業界で、創和は平均年齢42歳。10代から70代までバランスよく在籍し、多国籍ながら抜群のチームワークを奏でる仲間たちと共に、猪狩社長はより高みを目指している。

広がり続ける創和の未来

現在、同社の事業割合は、船舶内装事業が6割、船以外の家具製造が3割を占める。経験豊かな社内設計士がいる強みを活かして、「将来的には特注家具の製造割合を増やしたい」と猪狩社長は構想する。

入社前10年間大工として修業した経験を持つ猪狩社長は、木を生かした新規事業にも積極的だ。「木と鉄の相性は良く、私自身も好きな組み合わせ。他社とコラボして商品開発をしたい」と語る。

「良いものを作って、周りの人たちが喜んでくれたら一番」と語る猪狩社長。そのために、ま



世界を航海する船に設置される各国の国旗を収納する専用キャビネット

津市伊倉津町に拠点を移した。人づてに請けた船舶に関するさまざまな仕事に取り組みむなかで、熱絶縁工事業の許可を取得し、液化天然ガスを運ぶLNG船の防熱工事に着手。また大手造船会社研究所での水槽試験模型船の製作支援や、防衛省向け掃海艦艇の木造船建造にも携わった。着実に業界内での知名度と信頼を築きあげながらも、造船会社の一次下請けには未だ到達できておらず、会長は「いつか造船会社から直接仕事を請けられる企業に」との想いを強くしていった。

そのような中、会長は思い切った決断をする。来たるいつかのために、現在本社・工場のある場所に土地を購入したのだ。「船舶の家具製造の話がきたら、工場が必要になる。発注メーカーに近い方がいいと考えてのことだったと聞いている」と現社長の猪狩孝久氏は話す。90年に株式会社創和を設立し、翌年、工場を新設し稼働した。

厳しい時代を支えた2つの事業

しかし、この巨大な設備投資により返済や運転資金の工面に苦勞する。「経営は苦しく、家族4人が6畳一間で暮らしていた。工場を辞めたら楽になったはず。それでも会長は諦めなかった」と猪狩社長は幼い頃を振り返る。

る、どちらも自社でできることが強みだった。

もうひとつ会社を支えたのが、長年続けてきた熱絶縁工事業だ。LNG船製造は通常の船舶製造よりも大規模プロジェクトとなる。多くの職人の応援が必要で、人員や資金の工面が大変だが売上も増える。

条件をいわず仕事を引き受け、耐え忍びながら会長は会社を存続させた。

念願叶い船舶の家具製造を担う

長く厳しい冬の時代を過ごした創和だったが、2016年に転機が訪れる。LNG船の大きな受注が入り、当時年商7億円だった同社が、月に2億円を売り上げた。そして、転機は重なる。長年、船舶家具製造の一次下請けだった会社が事業を撤退することになったのだ。その後任として複数社が名乗りを挙げたが、選ばれたのは創和だった。「これまで積み上げてきた信頼と実績が評価され選定いただいた」と猪狩社長。誠実な仕事ぶ

りが遂に結果となり花開いた瞬間だった。

造船業界は工程が特殊で、参入障壁が高いといわれるが、苦節40年を経て、船舶の家具製造において設計・製造・取付までワンストップで請け負える企業となった。

基盤を整え、新たなフェーズへ

20年、孝久氏に代替わりした同社は、再び大きな転換期を迎えている。

21年に家具工場を新設し、職場環境の整備に力を入れた。今後の受注増加と人手不足を見越して、猪狩社長自ら林業先進国のドイツへ出向き最新設備を視察し、同社にも導入した。「機



合板、MDF、パーティクルボードなどの板材を高速かつ正確にカットでき、WCC(CAD/CAMシステム)とのデータ連動にも対応する最新機器

支店より一言

船舶に備え付ける木工家具に強みを持つ同社。

木材の特性をよく知るプロ集団が、大部分を金属が占める船舶に木のあたたかみを添えて、居住性に富んだ空間を創り上げます。「創造と和」同社の挑戦は今後も続きます。

支店より一言

船船に備え付ける木工家具に強みを持つ同社。

木材の特性をよく知るプロ集団が、大部分を金属が占める船舶に木のあたたかみを添えて、居住性に富んだ空間を創り上げます。「創造と和」同社の挑戦は今後も続きます。

百五銀行 高茶屋支店長 兼 香良洲支店長 北後 俊輔